

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 21 年 5 月 21 日 (2009.5.21)

【公開番号】特開 2006-290888 (P2006-290888A)

【公開日】平成 18 年 10 月 26 日 (2006.10.26)

【年通号数】公開・登録公報 2006-042

【出願番号】特願 2006-106452 (P2006-106452)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/02 (2006.01)

A 6 1 K 8/73 (2006.01)

A 6 1 K 8/46 (2006.01)

A 6 1 K 8/44 (2006.01)

A 6 1 K 8/37 (2006.01)

A 6 1 K 8/60 (2006.01)

A 6 1 Q 19/10 (2006.01)

A 6 1 Q 9/02 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 8/02

A 6 1 K 8/73

A 6 1 K 8/46

A 6 1 K 8/44

A 6 1 K 8/37

A 6 1 K 8/60

A 6 1 Q 19/10

A 6 1 Q 9/02

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 4 月 6 日 (2009.4.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

45～82 重量%の量の少なくとも 1 種の水溶性ポリマー、及び

18～55 重量%の量の少なくとも 1 種の界面活性剤

を含むパーソナルケア組成物であって、該組成物が乾燥フィルムであり、該重量%が乾燥フィルムの全重量に基づくものである、パーソナルケア組成物。

【請求項 2】

前記少なくとも 1 種の水溶性ポリマーが、合成ポリマー、天然ポリマーまたはそれらの組み合わせを更に含む、請求項 1 に記載のパーソナルケア組成物。

【請求項 3】

前記の少なくとも 1 種の水溶性ポリマーが、プルラン、澱粉またはそれらの組み合わせを含む少なくとも 1 種の天然ポリマーである、請求項 2 に記載のパーソナルケア組成物。

【請求項 4】

前記の少なくとも 1 種の水溶性ポリマーが、100:0～75:25 のプルランの澱粉に対する比を有するものである、請求項 3 に記載のパーソナルケア組成物。

【請求項 5】

前記パーソナルケア組成物が少なくとも１種の可塑剤を更に含み、そして前記の少なくとも１種の水溶性ポリマーが澱粉とプルランのブレンドを含むものである、請求項１に記載のパーソナルケア組成物。

【請求項６】

前記の少なくとも１種の可塑剤が、前記組成物中の澱粉の重量基準で１５％より多い量で存在する、請求項５に記載のパーソナルケア組成物。

【請求項７】

前記の少なくとも１種の可塑剤が、前記組成物中の澱粉の重量基準で１８％より多い量で存在する、請求項６に記載のパーソナルケア組成物。

【請求項８】

前記パーソナルケア組成物が少なくとも１種の可塑剤を更に含み、そして前記の少なくとも１種の水溶性ポリマーが澱粉を更に含み、該少なくとも１種の可塑剤が該組成物中の該澱粉の重量基準で１８％より多い量で存在する、請求項１に記載のパーソナルケア組成物。

【請求項９】

前記少なくとも１種の界面活性剤が、ラウリル硫酸ナトリウム、ラウリル硫酸アンモニウム、ソジウムラウレススルフェート、アンモニウムラウレススルフェート、ココミドプロピルベタイン、ラウラミドプロピルベタイン、ジソジウムココアムホジアセテート、ラウロイルサルコシンナトリウム、ＴＥＡ ココイルグルタメート又はデシルグルコシド、或いはそれらの組み合わせを含むものである、請求項１に記載のパーソナルケア組成物。

【請求項１０】

前記水溶性ポリマーの遊離酸基を中和するのに十分な量で存在する少なくとも１種の中和剤を更に含む、請求項１に記載のパーソナルケア組成物。

【請求項１１】

前記フィルムがクレンジングフィルム又はシェービングフィルムである、請求項１に記載のパーソナルケア組成物。

【請求項１２】

皮膚及び／又は髪のカレンジング方法であって、
泡を生成するのに十分な量の水で請求項１に記載のフィルムを濡らすこと、及び
該泡を該皮膚及び／又は髪に適用すること
を含む、方法。

【請求項１３】

基体のシェービング方法であって、
泡を生成するのに十分な量の水で請求項１に記載のフィルムを濡らすこと、及び
シェービングを施すべき該基体に該泡を適用すること
を含む、方法。

【請求項１４】

非変性澱粉及び変性澱粉から成る群より選択される澱粉で請求項１に記載のフィルムをコートすることを含む、溶解可能なフィルムのブロッキングを防止する方法。

【請求項１５】

前記澱粉が疎水性的に変性されたものである、請求項１４に記載の方法。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００５１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００５１】

米国ニュージャージー州BridgewaterのNational Starch and Chemical Companyからの
ULTRASPERSER A（ワキシマイズスターチ）ポリマー、N-LITE LP
ポリマー（ヒドロキシプロピルスターチ）、AMAZE（登録商標）ポリマー（変性さ

れたコーンスターチ)、CELQUAT(登録商標)LS-50樹脂(ポリクオータニウム4/ヒドロキシプロピルスターチコポリマー)、STRUCTURE(登録商標)XLポリマー(ヒドロキシプロピルスターチホスフェート)、DRY FLO(登録商標)PC潤滑剤(アルミニウムスターチオクテニルスクシネート)、DRY FLO(登録商標)AF潤滑剤(変性されたコーンスターチ)、DRY FLO(登録商標)ELITE LL潤滑剤(アルミニウムスターチオクチルスクシネート及びラウリルリシン)、DRY FLO(登録商標)ELITE BN潤滑剤(INCI名称:アルミニウムスターチオクチルスクシネート及び窒化硼素)、PURITY(登録商標)21Cスターチ(トウモロコシ(zea mays)(コーン)スターチ)、TAPIOCA PURE(タピオカスターチ)、NOVATIONの商品名で販売されている熱抑制されたコーン、ポテト、タピオカ、高アミロース及びワキシーマイズスターチ、並びにHI-MAIZEの商品名で販売されている抵抗性澱粉がある。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0098

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0098】

本発明の特に好適なクレンジングフィルム組成物は、ブルランと少なくとも1種の界面活性剤を含む。本発明のもう一つの特に好適なクレンジングフィルム組成物は、ブルラン、ヒドロキシプロピル化された高アミロースコーンスターチのような少なくとも1種の澱粉、少なくとも1種の界面活性剤、及びグリセリンを含む。本発明のもう一つの特に好適なクレンジングフィルム組成物は、フィルムの30～66重量%の量のブルラン、及びフィルムの30～55重量%の量の少なくとも1種の界面活性剤を含む。本発明のもう一つの特に好適なクレンジングフィルム組成物は、30～66重量%のブルラン、30～55重量%の界面活性剤、及び10～37重量%の変性澱粉を含む。本発明のもう一つの特に好適なクレンジングフィルム組成物は、30～66重量%のブルラン、30～55重量%の界面活性剤、10～37重量%の変性澱粉、及び0.1～5重量%のグリセリンを含む。